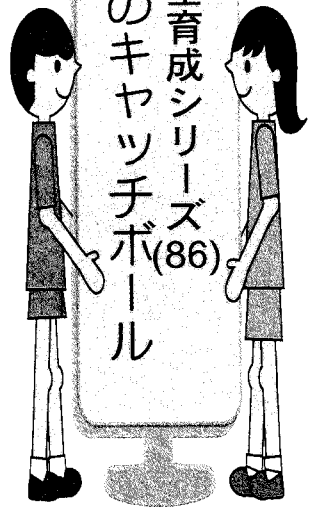


健全育成シリーズ(86) 愛のキャッチボール



全てのお父さん・お母さんたちは自分の子どもはいい子に育てたいと願って毎日の子育てに精を出していると思います。しかし、自分の子育てに自信を持っているとハッキリと言い切れるお父さんやお母さんは少ないと思います。それは子育ての中で、自信を失ったりと悩んだりすることが多いからだと思います。

そんな多くのお父さんやお母さんの悩みにちよつとした光を投げかける本があります。多くの方々には既にご存じかと思いますが、内田玲子さんという方が書いている『愛のキャッチボール』という本です。内田さんは本の中で、「難しい理論や知識ばかりの育児書や本に頼り過ぎてはいませんか、【答え】は、毎日の生活の中にあるんです。あなたの体の中にあるために、愛のキャッチボールをしてみませんか」と言っています。そこで、具体的に愛のキャッチボールとはどんなことなのか、ちよつと覗いてみたいと思います。その中にきつと多くのお父さんやお母さんの悩みに答えられる光が見つかるかもしれません。

『独り寝』 四歳の長男が、ある日突然、「お母さん、ボク今夜から一人で寝る」といいました。子どもからこんな言葉を受けた時、「一人だと怖いわよ」そんな言葉で脅していませんか。「ボク、もう四歳だ

もん」「夜中に淋しくなっても知らないわよ」「親の方がまだ一緒に寝たいという心がある」と「やっぱり、お母さんと寝る」と言い出すまで脅す人がいます。これではドッチボールです。子どもの心を縮めるだけです。「お母さんボク今夜から一人で寝る」そんなことを母親に向か



って発言するのは、子どもの心が大きく成長を始めた時です。「偉いわね。もう、お兄ちゃんだもんね。お母さんは淋しいけど、がんばろうね」こんな時が、上手に親子でできるチャンスなのです。子どもとの何気ない会話の一つ一つを、一個の人格を持った人間として大切に受け止めてあげることが子どもと親に信頼されていることがわかって、少しずつ勇気が湧いてくるのです。一方、育児の本に書いてあるからと、自立心をつけるために子どもの心に関係なく親と別の部屋に寝かせようとするとお母さんがいます。それが、しつけどと考えているのでしょうか。

さらに自分の都合のためだけで別室にしてしまう場合もあります。子どもの言葉を成長のチャンスとして受け止め、プラスで引き抜いてあげたとき、子どもは、それだけで生き生きと生きてきます。

『お金の無心』

突っ張りの行動が目立ち始めてきた中学生の長男から「よう、金くれよ」と言われた時。子どもは「一言に「また、何に使うの。この前たくさんあげたのはどうしたの」それだけでなく、「お母さんがどんな思いで働いているかわかるの。いい加減にしないさいよ。近所の人からジロジロ見られて、お母さんは恥ずかしいのよ」さらに、追い打ちをかけるかのように「いつ、この家を出ていってもいいのよ」と最後通告を発してしまふ。子どもの心は、金さえもらえれば、どうでもいいやになるでしょう。いくら素行がおかしくなりつつあるとはいえ「何に使うの」「洋服買いたいんだ」「わかつたわ。いくらいるの」子どもの言葉を信じて渡してあげると本人は、これ以上親を騙してはいけな、と反省するようになります。本人が、反省するまで信じることが大切です。「わがままにならないうか」と不安視する方もいるでしょう。お母さんの腹が決まれば、いつまでも、ズルズル引きずることはないでしょう。子どもの歪んだ心の手術は、親の「愛の心」でなければ出来ないのです。理屈や、心理学の分析、占いは解決出来ないでしょう。

内田さんは、毎日の生活の中で、子どもを信じ、子どもの心を大切にすることから子育ては始まると言いたいのだと思います。どうでしょう、「愛のキャッチボール」を始めてみてはいかががでしょう。子育てに光が見えるかもしれませぬよ。

伝言板

大月保健所

大月市大月町花咲1608-3

☎(22) 7824

痴呆性老人の

家庭看護について

「さつきまであったのに、いつたどこに置き忘れたのだろう」「以前、一度お目にかかったはずだが、名前は……」といった「置き忘れ」や「ど忘れ」は、お年寄りに限らず若い人にもよくみられます。

しかし、痴呆は、今食べたばかりの食事をまだ食べていないといったり、しまい忘れた物や金などを盗られたと大騒ぎしたりするのが特徴です。こんな時、家族は困惑し、人間関係が、ぎくしゃくしがちです。痴呆症を正しく理解し、看護のこつを心得て介護することが大切です。

保健所では、痴呆の介護負担の軽減を支援するため次の事業を行っています。

一 痴呆性老人家庭看護教室

※第一回教室開催日程

9月11日・18日・25日(各金)

※第二回教室開催予定 11月

・内容 痴呆の理解、社会福祉制度の活用など

・申込先 大月保健所保健指導課

二 個別相談：随時行っています

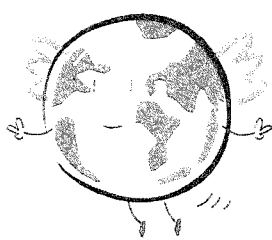
ので気軽にご相談ください。

環境ホルモンとは？

新たな環境汚染として関心が高まっている環境ホルモンは、外因性内分泌かく乱化学物質ともいわれ、人間や動物の体内に入ると、生体内のホルモンに似たはたらきをするため、正常なホルモンの分泌を阻害し生殖異常などを引き起こすといわれています。

現在、環境庁が環境ホルモンではないかと疑っている物質は約七十種類あり、代表的なものはダイオキシン類、PCB、DDT、ビスフェノールAなどがあります。

数年前から、欧米諸国において動物や魚の生殖異常やオスのメス化が進んでいるという報告があり、また人間においても若い男性の精子数の減少や子宮内膜症の女性が増加しているなどの指摘がなされています。しかし、因果関係についてはまだ解明されていないことが多く、冷静な対応が求められるとされています。



現在、我が国でも環境庁が中心となって調査・研究を行っておりその成果が期待されています。